

めえープルファーム

調査団体名:めえープルファーム	団体代表者名 : 鈴木光明
設立年 : 2015(平成27)年12月24日	対応してくれた人の名前 : 鈴木光明 代表、鈴木康生 前事務局長
団体URL : (フェイスブック めえープルファーム で検索)	(同席 貞島容子 矢作新報記者)
活動拠点 : 豊田市新盛町菅田20-2	調査員 : 野田賢司、水谷裕子(同席 夫の澤さん)
取材日 : 2017年12月17日	レポート作成者 : 野田賢司

活動内容

(1) 活動目的

本団体の活動は、少子高齢化が進む山里で、耕作できなくなった農地等の除草にヤギを放牧し、その維持管理を容易にして休耕農地・原野を再生し、山里の営みに役立たせる。同時に地域の子供たちに生き物(家畜)とのふれ合いの場を提供する。もって、山里の農地・集落の景観を守り、活力が持続する故郷を次世代に引継ぐことを目的としている。

(2) 設立経緯

足助地区も山里の営みが減少する中で、人工林の手入れ不足とともに放置され荒れる農地等も多くなり、かつて美しい故郷の姿が変貌し、農地等の保全管理も地域の大きな課題になってきた。この解決手段にと、足助地区北部に位置する新盛町の住民ら有志が集まって「ヤギ(山羊)プロジェクト」を立ち上げた。きっかけは、新盛自治会長の鈴木光明氏が地元的女性から「自分たちの手で新盛を盛り上げたい」と相談を受けたことや、知り合いから「長野県の売木村では耕作放棄地の草刈りにヤギを使っているぞ」と聞いたことであった。

2015(平成27)年、新盛町等の住民らが長野県南信州の売木村を視察した。そこで、ヤギが耕作放棄地の草を食べて美しい風景が保たれているのを目の当たりにした。また、村の活性化に尽力する清水秀樹村長の話聞き、斬新的なアイデアや取り組みに大きく心を動かされた。視察を終えたメンバーは、早速、取り組みをスタートさせた。会長は新盛自治会長の鈴木光明氏、事務局長は同町の喫茶「郷地」店主の鈴木康生氏が務める。本会当初メンバーは、(株)山恵の代表取締役(元足助町助役)の小澤庄一氏、新盛里山耕実行委員会長の鈴木智氏、足助支所職員など10人であった。

同年12月8日に、里山くらし体験館「すげの里」で第2回ヤギ会議が行われた。協議事項はプロジェクトの趣旨説明、ヤギの飼育場所、運営資金の調達方法、都市住民との交流などだった。メンバーは皆それぞれに仕事を持っているため、飼育を当番制にしようという案が出たが、飼育者とのスキンシップを好むヤギの習性から無理ではないかとの結論に。飼育場所が喫茶「郷地」の近くに決まったため、鈴木康生氏が主に世話することになった。ここを拠点にヤギを農地等へ連れて行き草を食べさせる計画である。

(3) 主な活動経過

2015(平成27)年度	本会設立。名称は、ヒツジのお馴染みの鳴き声に、足助地区の名所「香嵐溪」もみじ(紅葉)のカエデ類の英語の総称 Maple(メープル)と、農場・牧場 Farm(ファーム)を合わせ、地域性・固有の取り組みを表現(パフォーマンス)している。ヤギ飼育研修。飼育拠点整備開始。
2016(平成28)年度	飼育拠点の整備、飼育小屋の設置、ヤギ(2頭)購入、飼育拠点の開園式(10月)
2017(平成29)年度	ヤギ貸出し放牧の試行開始。※2018(平成30)年度に本格化させる予定。

キャッチフレーズ

ヤギで除草のお手伝い

会のモットー(何を大切にしているか)

ヤギで山里の美しい風景を守る。ヤギで草刈り、山里・集落を美しく。息子たちが自慢できる故郷にする。

設立から現在に至るまで変化したこと

- ・ヤギの飼育拠点の確保。飼育施設の整備、飼育・飼料小屋の建設。現在は、飼育施設の一部移動を予定している。
- ・ヤギの購入。当初は2頭で始め、3年目の今は6頭に増えている。
- ・活動本格化。ヤギの飼育研修を経て、除草放牧、貸出しの試行に移った。
- ・会員の増加。初年度:10人。2年目:19人。3年目(4月現在):26人。
- ・事務局長の交代。当初:鈴木康生氏(現 飼育員)がヤギ飼育と兼務。現在:竹尾博史氏(三州しし森社中)が担う。

連携している団体・専門家・自治体など

- ・豊田市、豊田市足助支所(足助地区わくわく事業補助金)
- ・トヨタ労組 社会政策事業 里山耕(農業体験活動)

流域圏の担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、地域資源の活用など)

- ・耕作放棄農地の除草に留まらない、多角的な事業展開を構想している。
樹園地化して雑草の除草をやぎに担ってもらう。果樹の収穫・販売。
やぎの乳製品づくり。(生産・販売にはまだハードルが高い。)
- ・やぎの他に、養鶏なども行い、食肉・採卵・その他の産直販売、動物とふれ合いを楽しむ場所・イベントづくり。

現在直面している課題

- ・日々やぎの世話ができる人の確保。
- ・やぎの飼育に係る経費:飼料(特に、冬季の期間)、予防接種など。当面は、鶏肉・卵生産販売なども行う必要がある。
- ・飼育エリア・施設の一部(子供達の遊び場)の移設。(国道153号寄りの平地に移す。)

今後やってみたいこと

- ・実績づくり(除草放牧、地元住民等への貸し出し)への追及。次年度から、今飼っているやぎ達を“草刈り隊”として、要望がある放置農地の維持管理に派遣したい。一件でも連れて行って放して実績を上げたい。
- ・将来:やぎの乳から加工食品をつくり販売できるようにする。除草で美しくなった土地を果樹園にしていく。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か

- ・地元の町内だけでなく、この取り組みに広く支援をいただきたい。
- ・耕作放棄農地の除草貸出し希望者の情報提供。矢作川流域圏でやぎ除草の実績PR。
- ・やぎの乳製品づくりなどに係る指導。

チームオリジナルの質問

<質問内容>

- ・飼育を始めたやぎのプロフィールをお聞かせください。

<答え>

- ・飼育種はザーネン種です。(特徴:体毛がほとんど白色で体が大きい。飼育し易く、病気に罹り難い。)
- ・最初の2頭は、売木村の牧畜者から購入しました。
もみじ♀、かえで♀・・・姉妹、新盛小学校の子供達が命名してくれました。
- ・次の2頭は、どん♂・・・稲武から買ってきました。(引越して農園の草刈りに出来なくなった2頭。)
ぐり♂・・・同上、交雑種です。
- ・更に2頭は、ころ♀ 雑種・・・巻き毛があり、小さい方です。
山奥で飼っていた老婦人が高齢化し、面倒見られなくなったため引き取った個体です。
ふあむ♂ 2017(平成29)年5月生れの子やぎで、鈴木康生氏(前事務局長・現飼育員)の所有です。

チームオリジナルの質問

<質問内容>

- ・放牧場所までのやぎの運搬はどのようにされていますか。

<答え>

- ・軽トラで行っています。荷台を柵で囲み、中に乗せて運びます。乗り慣れていないと難しいかもしれませんが、行く先の場所で草がふんだんに食べられることを学習すると、運搬にうまく慣れてくれます。長距離でも耐えてくれます。

チームオリジナルの質問

<質問内容>

・家畜導入による農地管理の付加価値として、実践活動の効能を分かりやすく伝えると理解が進み協力や支援も広がるのではないかと思います。取材者としてもこの取り組みはとても興味深く、流域圏連携のお手伝いとして、現地を定期的に訪問してデータ収集し、活動の実績と効能について事例調査*してみたいと思いますが、よいでしょうか。

* 阿摺川流域で活動エリアと対照(未活動)エリアの比較、活動の定量化と報告。

<答え>

・可能です。喫茶点「郷地」に参考図書などを置いています。近くには豊田市里山くらし体験館「すげの里」もあります。

その他、伝えたいこと

・ヤギは目に見えて草を速く食べていないので、果たしてヤギで除草が可能なのかと疑心暗鬼の村人もいます。ヤギは一日中食べている感じなのですが、春になると農地の草が抑制される状態がわかると思います。

・一緒に活動してくれる会員を募集中です。問合せ先：鈴木代表(TEL090-7043-2688)又は喫茶点「郷地」(TEL0565-67-2706)。

写真



写真1 めえーぷるファームの鈴木光明会長



写真2 めえーぷるファーム・ヤギ舎(小屋)



写真3 ヤギ舎内：6頭の様子(入口から)



写真4 同左・冬季屋内で過ごすヤギ達



写真5 飼育場：人工林床・林縁緩斜面



写真6 聞き取りの様子(左奥：鈴木会長)